

種山ヶ原は今 58

「賢治と雲」

賢治作品「種山ヶ原」の中に種山ヶ原の気象の特徴が下記のように書かれてある。

東の海の側からと、西の方からの風や湿気のお定まりのぶつかりの場所でしたから、雲や雨や雷や霧は、いつでももうすぐ起こって来るのでした。それですから北上川の岸からこの高原の方へ行く旅人は、高原に近づくに従ってだんだんとあちこちに**雷神**の碑を見ることがようになります。



確かに子ども達対象の「星の観察会」をする時、雲の流れでまもなく晴れるのだが、待たせるのが大変。そんな種山ヶ原の雲の写真を撮影してみた。雲の変化は、あっという間。《**石塔「雷神」**》

<2026・9・20 の種山ヶ原の雲の様子>

麓に 17 期確認

雲の中に突入



雲の中



雲の中から出るときれいに下界が見える ←



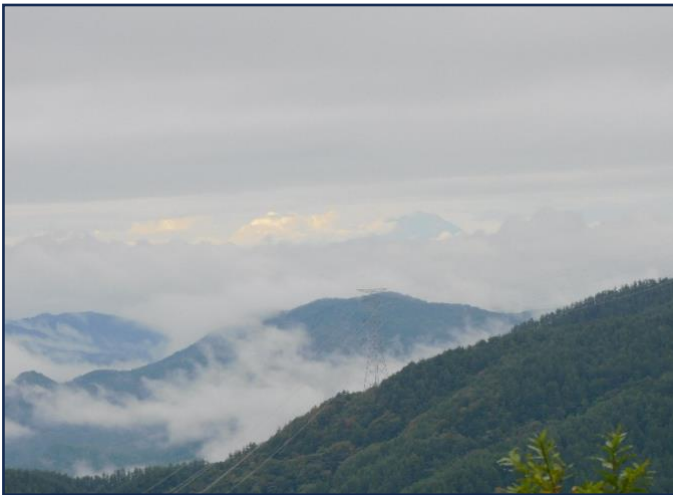
又三郎も雲の中



雲が過ぎていくと、空が見えて来ます！ その時その時を楽しみましょう！

雲が上がって行くと遠くに岩手山がかすかに

胆沢平野も見えるようになる



宮沢賢治は「雲に関する短歌や詩も」多く残しています。

<短 歌>

「けふもまた 銀河のはての 積乱雲

ひかりはらみて こちらへ来たる」

「西の山 雲のかたちの かわりゆく

あしたは雨か それとも晴れか」

< 詩 >

「春の修羅」に「雲の信号」という作品があります。

「雲の信号」

あゝいいな せいゝするな

風が吹くし

農具はぴかぴか光ってるし

山はぼんやり

岩頸(がんけい)だって岩礁(がんしょう)だって

みんな時間のない頃のゆめをみているのだ

そのとき雲の信号は

もう青白い春の

禁欲のそら高く掲げられていた

山はぼんやり

きっと四本杉には

今夜は雁もおりてくる 〈全集「春と修羅」第二巻〉



種山ヶ原の晴れた日 すじ雲・巻雲（氷の結晶、高度約 10 km、）天気悪化の前兆



ほんの 5 分で変わるんです。秋の空は。



うろこ雲、いわし雲・巻積雲



ひつじ雲・高積雲(高度約 5 km)

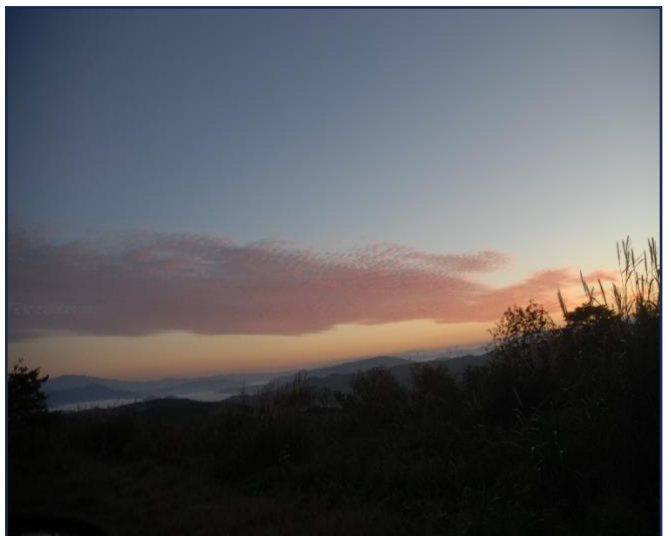
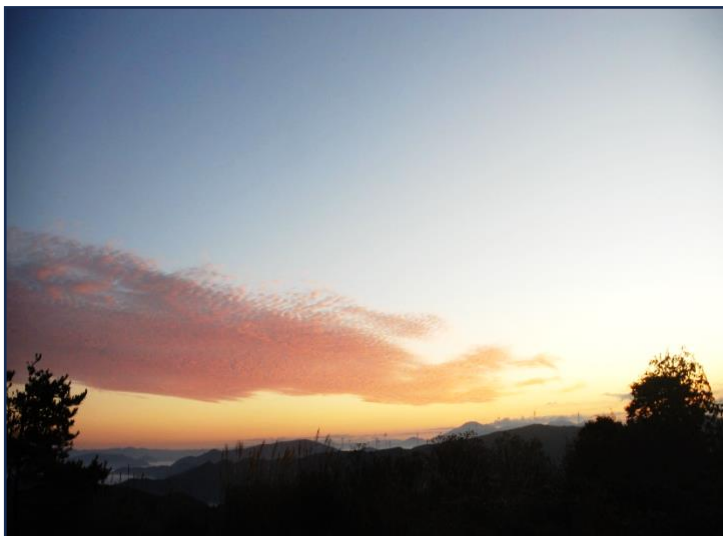
※ひつじ雲と

うろこ雲の区別がまだ良く
分かりません。



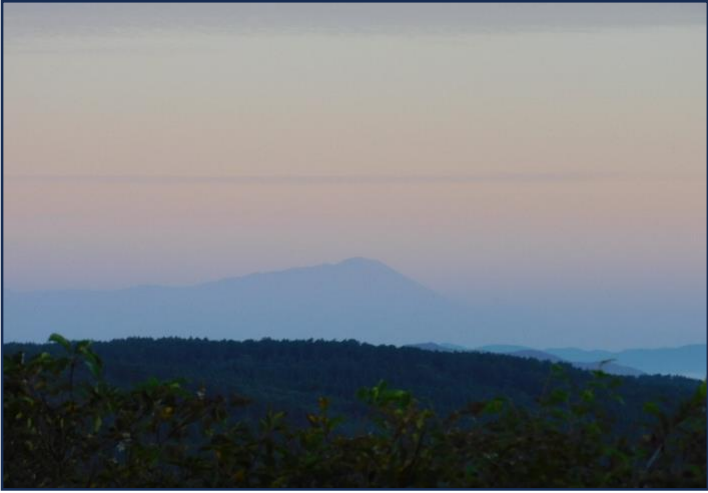
種山ヶ原の黎明

うろこ雲 朝日を受けて

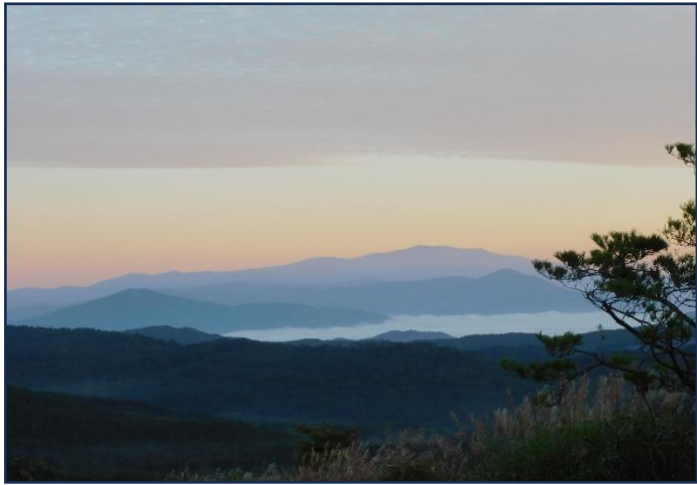


雲海がかすかに見えます

岩手山がうっすらと



早池峰山も雲海の上に



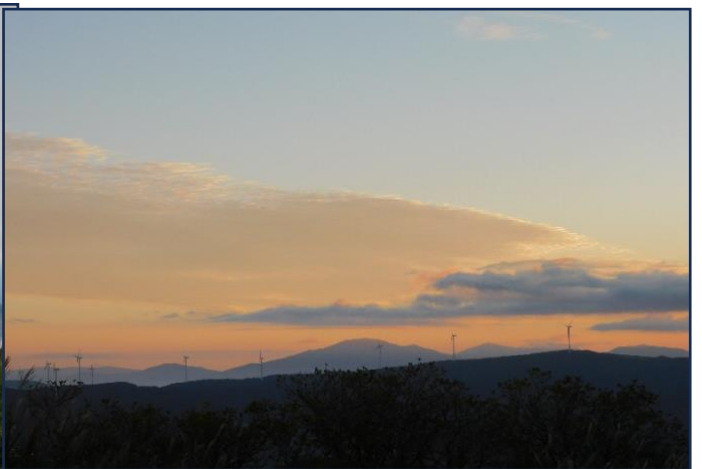
物見山に朝陽



奥羽山脈・焼石に朝陽



星座の森には



ヨメナ ノコンギクかも

ヤマナシの実

ミズヒキ

